

OICではここ数年、聖書的な創造論をテーマにメッセージをお届けしようとしてきました。創世記に記された聖書の歴史に示される神の創造の証拠は、厳然とした真実であり、信頼に値するもので、再解釈の必要性はありません。

聖書的な創造論は、世界中の教会でもっとも見過ごされがちな働きのひとつであると、私は考えています。その理由のひとつとして挙げられるのが、牧師や教師の知識不足です。また、残念なことに、神のみことばに対する信仰の欠如と、科学と称する非聖書的な思想の過多もその一因です。創世記の根幹部分で神のみことばが攻撃を受けているにもかかわらず、これに対して多くの教会は強く反応せず、妥協したりうやむやにしたりします。

コリント第一14：8は次のように語ります。

14:8 また、ラッパがもし、はっきりしない音を出したら、だれが戦闘の準備をするでしょう。

教会は、「はっきりしない音」を出しています。聖書の教えを妥協し、まったく非聖書的な思想を受け入れた教会もたくさんあります。このトピックに触れず、神の教えの全容を教えることをないがしろにしています。けれども、アンサーズ・イン・ジェネシスやクリエーション・ミニストリーズ・インターナショナル等の素晴らしい働きのおかげで、日本、そして世界中の多くの教会で、事態は改善されつつあります。私は夏に、父と息子のチャールズと一緒に、ノアズアーク・エンカウンターを再訪しました。世界中からたくさんの方がこの施設を訪れます。来訪者は、そこで得た知識によって神のみことばを守れるようになり、聖書に対する信仰を新たにします。マルティン・ルターの時代に起こったような新たな改革が起こっていると私は感じています。神のみことばの権威に立ち返るのです。今日のメッセージがキリスト教会全体にとって、そしてとくに私たちの教会にとってきわめて重要であることを皆さんにもご理解いただけることを願っています。

私の母国アメリカの教会は、深刻な問題を抱えています。

有名なりサーチャーのジョージ・バーナ氏は、教会に通う十代の若者を対象とした調査を行いました。「実家を離れても教会に通いますか」という質問に、なんと7割の若者が「通わない」と答えました。これは憂慮すべき傾向です。なぜそうなってしまったのでしょうか。

教会、神学校、キリスト教系大学、キリスト教書店、キリスト教系ラジオ放送局、キリスト教系テレビ局、どれをとってもその軒数はアメリカが世界一です。さらに、ネットで得られるキリスト教の情報も充実しています。にもかかわらず、アメリカの文化はキリスト教色を日に日に失っています。キリスト教に対する敵意が感じられるほどです。なぜ教会は、アメリカ文化に対して往年のような影響力を失ってしまったのでしょうか。その主な原因は、文化から影響を受けることによって教会が弱体化してしまったからだだと私は考えます。

英国では違った状況でしょうか。残念ながら、その傾向はもっと強いようです。英国で教会に通う人の割合は、45%から5%に落ち込み、間もなく3%になるだろうと思われまます。このままだと近い将来、英国国教会は存続の危機にさらされるでしょう。人が神への信仰を失うと、自然の成り行きとして、生きる意味や目的を見いだせなくなります。若者たちは、自分が神に似せて造られていることも、神が自分たちの人生に素晴らしいご計画をお持ちであることも知りません。

2008年には、アメリカのリサーチグループとアンサーズ・イン・ジェネシスが共同で研究を行いました。対象は、保守派の聖書を信じる教会に以前は通っていたけれども現在は通うのをやめてしまったアメリカ人の若者です。対象年齢は20-29歳です。研究結果は「Already Gone (失われた人々)」という本で発表されています。

最初のグラフが示すのは、対象者の中で、進化論やビッグバン理論、そして地球が何十億年も前からあるという説が事実として教えられている公立校に、教会から去った**85.9%**の子供たちが行った数です。アメリカでは、神に対する信仰を攻撃されるのは大学に入ってからだとクリスチャンは考えがちですが、この研究は違った結果を示しています。

次のグラフは、もう神を信じていないと答えた対象者に対して、いつから神の存在を疑い始めたか尋ねた結果です。教会に通っていた子どもたちの**90%**近くが、大学に入るよりずっと前から疑いを持っていたことがわかります。

次のグラフは、聖書が本当に正しいか疑問を持ち始めた年齢を尋ねた結果です。**85%**以上が、大学に入る前だと答えています。

最後のグラフは、聖書に疑問を持つ一番の原因を尋ねた結果です。保守派の聖書を信じる教会に通い、日曜学校にも入っていた若者が第一に挙げた原因が、地球の年齢です。

私たちがこのテーマに熱心なのは、こういう理由です。私たち教会が、懐疑的な現代人に答えを与えていないことで、若年層を失っているのです。子どもたちは、人間が動物から進化した、地球は何十億年も前にできた、と学校で教わっています。そして、聖書の歴史が間違っていることは科学的に証明されていると思って育つのです。何十億年も前に地球ができたという説や進化論まで許容するために、聖書の教えを変える教会の指導者もいます。断絶説、漸進的創造論、有神進化論などと呼ばれる、聖書の教えを妥協した有害な思想です。神のみことばが真実であるというあらゆる証拠を神が与えてくださったのに、なんと残念なことです。水によって泥と岩の層に埋まった動植物の化石は、地球上各地で見られます。これは、ノアの洪水を示す明らかな証拠です。海の生物の化石が、世界最高峰のエベレストをはじめ、世界中の山で発見されています。これは、地球規模の洪水の証拠です。これらの証拠が示すのは、これらの山が現代ほど高くなかったことです。エベレストは、今も毎年数センチずつ高くなっています。ヒマラヤ山脈は、インドとアジア大陸の両方から押され、地震の頻発地域です。洪水の起こったころには、その高くなる速度はもっと速かったでしょう。

神は詩篇**104**篇で、ノアの洪水の時代の直後になされたことについて教えてください。

「水は、山々の上にとどまっていた。…山は上がり、谷は沈みました。…水が再び地をおおうことのないようにされました。」

グランドキャニオンも同じことが言えます。現地には、カイバブプラトーと呼ばれる場所があります。その場所は、隆起した部分です。神が山を隆起させ、海底を深く沈め、水が海に流れ出たのです。隆起したその場所は、アンドリュー・スネリングやスティーブ・オースティンといった地質学者たちによると、洪水の直後の柔らかな泥の層だったときに隆起が起きました。聖書の教えるとおりです。クリスチャンの人生はわくわくできる人生です。私のお気に入り、恐竜の軟組織です。私は子どものころ、エジプトの王ツタンカーメンとその墓室の話をテレビで見ました。番組のナレーターは、**3,300**年前のミイラの保存状態がどれほど良いかを強調します。ミイラは密閉された墓室で金銀財宝とともに発見されました。保存状態が素晴らしいと誰もが驚きました。

では、もうひとつの「ミイラ」をお見せしましょう。これは、ミイラ化したノドサウルスです。現在、カナダのロイヤル・ティレル古生物学博物館が所蔵しています。このノドサウルスは、大洪水でおぼれて海に流されたとみられる、と言われます。もっとも保存状態の良い恐竜だと考えられています。進化論者は、この種の恐竜は、**1億2,500**万年前に生息していたと言います。しかしそれはおかしな話です。この恐竜は、ツタンカーメンのように密閉された墓室から見つかったのではありません。ツタンカーメンのミイラが約**3,300**年前のものであるのに、ミイラ化したノドサウルスが軟組織も残したまま**1億2,500**万年も原形をとどめられるのでしょうか。それは不可能ですし、そんなことは起こらなかったのです。約**4,300**年前のノアの洪水でおぼれたことはほぼ間違いありません。

これまでに見つかった他の恐竜の化石もほとんどがそうです。短時間のうちに地中に埋まったのでしょう。そうであれば、保存状態が良いことに説明がつきます。世界規模の大変動を引き起こす洪水なら、そのようなことが起こります。

これは、ミイラ化したハドロサウルスです。インディアナ州のインディアナポリス子供博物館の所蔵です。これが、7,700万年前のものであるはずがありません。最近では、恐竜の軟組織がたくさん見つかっています。これは、ティラノサウルスから見つかったもので、柔らかく伸縮性も残っていました。発見当初、進化論者はこれが偽物だと言って、その発見を認めませんでした。その後、これは何らかの汚染によるものだと主張しましたが、今ではその明白な事実を認めざるを得なくなりました。それでも、何百万年前という説を考え直そうとはせず、まだ解明されていない過程を経て、何千万年も原形をとどめることができた、と言います。これは、それらが何百万年前ではなく、数千年前の生物である明らかな証拠です。聖書の歴史が信頼できるものなら、こういうことが起こってきます。そして、聖書は信頼できるのです。人類と恐竜が同じ時代に生きていたなら、なぜ恐竜が歴史の記録に登場しないのかと思われるのでしょうか。確かにその記録はあります。世界中のほとんどの古代文化に、竜の話があります。恐竜という単語は、1841年にできた新しい単語です。それ以前は、竜とか他の呼び方をしていただけです。

#### ヨブ記40：15-19

40:15 さあ、河馬（カバ）を見よ。これはあなたと並べてわたしが造ったもの、牛のように草を食らう。

40:16 見よ。その力は腰にあり、その強さは腹の筋にある。

40:17 尾は杉の木のように垂れ、ももの筋はからみ合っている。

40:18 骨は青銅の管、肋骨は鉄の棒のようだ。

40:19 これは神が造られた第一の獣、これを造られた方が、ご自分の剣でこれに近づく。

日本語の聖書では「カバ」と訳されていますし、これは象のような動物だと言う聖書注解者もいますが、これは十分な説明ではありません。象やカバには杉の木のような尾はあるのでしょうか。この個所に記された描写は、超大型草食恐竜サウロポッドにぴったりです。他の聖書個所には、竜や、海に住む危険生物レビヤタンが登場します。

もうひとつ目覚ましい例があります。イングランド北西部にあるカーライル大聖堂は、1133年に建てられましたが、そこには不思議な秘密があります。その秘密は、カーペットの下にあります。カーペットが敷かれたのは、聖歌隊の男の子たちの靴が何百年の間踏みつけた大聖堂の床を保存するためです。このカーペットの下はこのようになっています。よく見るとこれらは、1496年に亡くなったベル司教の墓の装飾であることがわかります。すり減って見えにくいですが、2頭のサウロポッドのような生物が刻まれています。これらの動物のいずれかの尾のスパイククラブに注目して下さい。現代の科学者は、1989年にスパイクの付いたクラブテールが発見されるまで、この機能を持つ竜脚類を知りませんでした。そして、聖ゲオルギオスと竜の話もあります。他にも、十二支は辰（たつ）以外どれも親しみ深い動物ばかりです。実在の動物の中にひとつだけ空想の生き物を混ぜるというのは一貫性に欠けます。おそらく数千年前に十二支が中国で始まったとき、竜も他の動物のように存在していたのではないかと思います。これは、カンボジアにある900年以上前に建立された寺院の彫刻です。何に見えるのでしょうか。ステゴサウルスに似ていませんか。それらの生物が何百万年も前に絶滅していたのなら、これを描いた人たちはどうやってその姿を知ることができたのでしょうか。他にもいくらでも例を挙げられます。

現代において神は、これまでの時代にも増して聖書を信じる根拠を多数与えてくださっています。教会とすべてのクリスチャンは、そのような情報を子どもたちに伝えなくてはなりません。学校では教えてくれないからです。

この種の情報は、ほとんどの教会で利用されていません。神のみことばの信憑性に対する疑問は、子どもたちの心と思考に巧妙に据えられます。そして、教会はそれらの疑問に対して答えをくれないと子どもたちは思うようになるのです。

教会は、救われていない人たちに向けた伝道がうまくできていないだけでなく、信徒の子どもたちが信仰を失わないように助けることもできていません。たくさん子どもたちが教会を離れていきます。それが、統計にはっきりと映し出された現実です。それはおそらく日本でも同じでしょう。日本では世間からの同調圧力も加わって、幼少期に通っていた教会を離れて信仰を失う若者の数は、もっと多いかもしれません。ここから、私自身の日本での体験についてお話ししましょう。

何年前か前、大地震と大津波が東北を襲いました。その後、私はある教会のチームの救済支援活動に参加しました。ある20歳の日本人男性もそのチームにいました。彼の家族は私の知り合いでクリスチャンです。なので、彼もクリスチャンだろうと思っていました。それで、どのようにイエスを信じたかと尋ねました。すると、自分はクリスチャンではないという答えが返ってきました。それで、家族がキリスト教の信仰を受け入れたのに、なぜ彼が信じないことにしたのか聞いてみました。その答えは次のようなものでした。キリスト教は良いお話を聞けるけれども、ビッグバンや進化論と矛盾していて土台がはっきりしていないから、理論的に言って聖書の話は真実ではあり得ない、というのです。彼は明らかに、ビッグバンや進化論が科学的事実だと思っているわけです。子どもたちはそう教えられているのです。これが、キリスト教の信仰を信じないと彼が決めた理由です。彼は、恐竜の軟組織や進化論の問題点については一切知りませんでした。誰も彼に進化論という宗教の矛盾点を教えてあげなかったのです。

皆さんの知り合いにも、教会を離れてしまった若者またはそれほど若くない人がいるでしょう。たいていの場合、これが真実だと心から思えなくなったからです。なんと悲しいことでしょう。私たちは教会の一員として、皆が固い信仰をはぐくめるよう助け合う責任があります。サタンは、私たちの心や思考に疑念の種をまき、イエスへの信仰を捨てさせようとしています。そうならないよう、助け合わなくてはなりません。聖書は、「若者をその行く道にふさわしく教育せよ。そうすれば、年老いても、それから離れない。」（箴言22：6）と教えます。神を神と思わないこの世の欺きにも負けず、信仰を守れるように備えさせることはとても大切です。人は、聖書が信頼できることを知る必要があります。創世記に記された神のみことばを疑うなら、救いの福音を含む聖書全体を疑うようにサタンがそそのかしてくるのも時間の問題です。大げさだと思いますか。

ひとつの例をお話ししましょう。

チャールズ・テンブルトン（1915-2001年）は、カナダ人伝道者でした。

1940年代、彼はチームメイトのビリー・グラハムよりも名の知れた存在でした。彼がメッセージをすると3万人の聴衆が集まったといえます。彼はプリンストン神学校に進学し、そこで進化論が事実であり、地球は何十億年も前にできたと教えられました。この教えにより、テンブルトンは福音の土台となる創世記に記された歴史を真剣に疑問視するようになりました。

そして1996年、彼は「神さま、さようなら」という著書を出しました。その著書の中で彼は次のように書いています。

1. 人間に似た優れた存在、聖書の言うところの神、は存在しないと私は信じます。すべての生物は、何十億年も前の時代を超えて起こった進化の力の結果だと信じます。
2. すべての生物は共通して、死んだ瞬間に存在がなくなると私は信じます。

チャールズ・テンブルトンは、科学の分野で聖書を信頼できないなら、救いや道徳の分野でも信頼することはできないとわかっていました。

ヨハネ3：12で、イエスはおっしゃいました。

「あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。」

テンブルトンは、創世記で神が語られた地上のことを信じませんでした。そしてついには、福音に語られている天上のことも信じなくなりました。

チャールズ・テンブルトンがプリンストンで教わったのと同じ嘘が、世界中の学校で今も教えられていることをわかってください。

私たちの身近にいる子どもたちにも、他の誰にも神に対する信仰を失ってほしくはありません。ですから、子どもたちを助けられるように、すべてのクリスチャン信徒が聖書に則った強い信仰を持

ち、私たちの信仰が論理的で理に適っていると説明できるようになれる方法を考えましょう。

では、創世記1章の話を読んで、神が私たちに何を語ってくださったかを見ていきましょう。まず神の語られたことを確認することで、意味を適当に推測するのを避けます。

#### 創世記1 : 1-5

- 1:1 初めに、神が天と地を創造した。
- 1:2 地は茫漠として何もなかった。やみが大水の上であり、神の霊が水の上を動いていた。
- 1:3 神は仰せられた。「光があれ。」すると光があった。
- 1:4 神は光を見て良しとされた。神は光と闇とを区別された。
- 1:5 神は光を昼と名づけ、やみを夜と名づけられた。夕があり、朝があった。第一日。

ここまでの個所を見ていきましょう。今日のテーマに関する重要な疑問は、5節の「一日」が通常私たちが言うところの約24時間を指すかどうかです。それとも、何億年を意味する可能性もあるのでしょうか。この訳からは、通常の日であることが明らかだと思われまます。実際、あとふたつの主流な日本語の聖書の訳も同様の意味のようで、創世記1章の話は長期的な時間ではなく通常の日を指すと取れます。「夕があり朝があった。」というフレーズの後に日数が書いてあるのに、何億年を意味する可能性が残されているのでしょうか。

主流な日本語訳の聖書がすべて間違っているか何かを見過ごしているかという可能性を払しょくするために、ヘブル語の辞書でも調べてみるべきです。

これは、「ブラウン-ドライバー-ブリッグズ共編ヘブライ語-英語辞典」です。聖書が通常の日を指す一例として挙げているのが、6日間の創造です。「ケーラー-バウムガルトナー共編ヘブライ語-英語辞典」でも、「日」という単語が通常の日を指す一例として創世記1章が挙げられています。次に、ヘブル語の専門家の意見も聞いてみましょう。オックスフォード大学の聖書釈義学元教授のジェームス・バー氏は次のように述べました。

「私たちが現在生きている24時間の一日と同じ一日の連続が6日間続いて創造がなされたこと、創世記1-11章の著者が読者に伝えようとしたことを信じない者は、私の知る限り、世界的に名の知れた大学のヘブル語または旧約聖書の教授にはいないでしょう。」

- a. これは驚くべきことではありません。神が伝えられた創造の話には、その意味を取り違える余地がありません。聖書で「日」という単語が数字と並べて用いられる場合は、常に通常の日を指します。これは、創世記1章以外で410回ありますが、どのケースも、その個所が通常の日を指しているかどうか議論しません。創世記1章だけが例外である理由はあるのでしょうか。
- b. 創世記1章には、第一日から第七日があり、すべて数字と並べて用いられています。これだけで、これは通常の日である約24時間の一日であると伝えるのに十分なはずですが。
- c. 「日」という単語が登場せず、「夕」と「朝」という単語が対になって用いられる場合は聖書の中に38回あります。それが通常の日であるかどうかを誰も議論しません。
- d. 「夕」と「朝」という単語が対になって「日」という単語と一緒に用いられる場合は、創世記1章以外で聖書に23回あります。それが通常の日であるかどうかを誰も議論しません。創世記1章だけが例外である理由はあるのでしょうか。
- e. 創世記1章以外の個所で「夜」という単語は52回聖書に登場します。それが常に通常の日を指すことを誰も議論しません。創世記1章だけが例外である理由はあるのでしょうか。

これほど明らかなのです。神は、6日間で創造の業をなされ、7日目に休息されたことを強調し過ぎるほど明確に示されました。疑いの余地を残されなかったのです。

- a. 疑いの余地はありませんが、まだ疑いが残るなら、神は出エジプト記20 : 8-11でも語られました。
- b. 「安息日を覚えて、これを聖なる日とせよ。六日間、働いて、あなたのすべての仕事をしなければならない。しかし七日目は、あなたの神、【主】の安息である。あなたはどんな仕事もしてはならない。…それは【主】が六日のうちに、天と地と海、またそれらの中にいるすべてのもの

のを造り、七日目に休まれたからである。…」

- c. これが神の示された、私たちの就業日に関する模範です。神はご自身の指で十戒を綴られ、ご自身のなされた業とそれにかかった日数を語られました。神は私たちに60億年働いて10億年休めとはおっしゃっていません。
- a. 問い：神が6日間で創造の業をなされ、7日目に休息されたことを聖書が明らかにしていなら、なぜ多くのクリスチャンがそれを信じようとしないのでしょうか。
- b. 答え：ビッグバン理論や地球が何十億年も前からあるという説が科学的事実だと信じるようこの世によって仕向けられているからです。このせいで、牧師や教師の中には良かれと思ってでしょうが信仰の弱さから、聖書の教えと何十億年も前から地球があるという説とを合致させようとした人たちがいました。古い地球説を当てはめる試みが可能な場所は唯一、アダムが造られる前です。

では、地球が何十億年も前からあるという説はどこから出てきたのでしょうか。

この説を提唱した主要人物は、チャールズ・ライエルです。ライエルは、「地質学原理」という本を1830年に出版しました。現代では、彼の個人的な手紙から、彼が科学的見地で地層を観察していなかったことがわかっています。彼には、「地質学をモーセから解き放つ」という目論見があったのです。ライエルは法律家でもあったので、説得力のある巧みな言葉で、聖書の教えの信用を傷つけようとしていました。しかも、聖職者が強く反発せず、むしろ賛同してくれる可能性のある方法でそうしたのです。

ライエルは以前、地層が地球の歴史上に起こった大変動によって形成されたと大半の地質学者が信じていました。ノアの洪水の時代に、地球の大半の地質が形成されたと信じていたのです。

しかしライエルは、水の浸食などのゆっくり徐々に起こる変化が何十億年もかけて地層や地形をゆっくりと現在のかたちへと形成していったと提唱しました。これを斉一説と呼びます。

斉一説は、「現在の観察が、地球の過去を理解するカギである」をモットーとしています。現代では、地球規模の洪水はないので、大昔にも起こらなかったと彼は推測しました。こうして、世界規模の洪水があったことを否定し、すべてがゆっくり徐々に起こる変化を経て、存在し続けると考えました。

### ペテロ第二3：3-6

- 3:3 まず第一に、次のことを知っておきなさい。終わりの日に、あざける者どもがやって来てあざけり、自分たちの欲望に従って生活し、
- 3:4 次のように言うでしょう。「キリストの来臨の約束はどこにあるのか。父祖たちが眠った時からこのかた、何事も創造の初めからのままではないか。」
- 3:5 こう言い張る彼らは、次のことを見落としています。すなわち、天は古い昔からあり、地は神のことばによって水から出て、水によって成ったのであって、
- 3:6 当時の世界は、その水により、洪水におおわれて滅びました。

この理論は、科学的検証に耐えるものでしょうか。いいえ、違います。

ライエルによると、地層は何百万年もかけて徐々にできたということですが、世界中でこのようなものが見つかっています。これは、多層貫通化石です。これは化石化した木です。一本の木がどうすれば何億年もかけて形成される地層の中から発見されるのでしょうか。この木は、何億年もかけて埋まるようにそこにずっとあったのでしょうか。もちろん違います。それならその過程でとくに腐っていたでしょう。同じような例が世界中で見つかっています。これらの木は、岩石がまだ柔らかい粘土質だったとき、短期間の間に埋まったはずです。まさに、地球規模の洪水で起こりそうなことです。

斉一説は19世紀に広く浸透しました。おそらく欧米文化が変化していき、人々が道徳的な抑制を求める聖書的な考えから遠ざかろうとしていたからだと考えられます。神を崇める社会から、人間の功績をたたえる社会へと変わろうとしていたのです。フランシス・シェーファーは、「理性からの

逃走」という本を書きました。その中で彼は、社会が変化していることに触れています。

テモテへの手紙4:3-4

- 4:3 と言うのは、人々が健全な教えに耐えられなくなり、耳に心地よい話を聞こうと、自分の好みにしたがって自分たちのために教師を寄せ集め、
- 4:4 心理から耳をそむけ、作り話にそれて行くような時代になるからです。

ダーウィンは、ライエルの本を持って、ガラパゴス諸島を訪れました。その本は彼に、地球が何十億年も前から存在するという枠組みの中で考えるように影響を与えました。

ライエルらが提唱した古い地球説に、神経質に反応した教会もありました。それが科学的事実かもしれないと思ったからです。そして、聖書の教えに何十億年という説を取り入れる方法を探しました。そう試みたとして知られる最初の人、スコットランド自由教会の神学者トーマス・チャーマーズ (1780-1847年) です。彼は、創世記1:1と1:2の間に時間差があるという説を提唱しました。

断絶説を広めたのは、1884年に出版されたG.H.ペンバー著の「地球の最初の時代」という本です。

そして、この説は断絶説と呼ばれるようになりました。この仮説は、何十億年という説を聖書の教えに取り入れようとしたものです。この断絶の数百万年の間に、恐竜が生息して絶滅し、地層が形成されたと言います。

観察すれば、これらの地層が短期間で形成され得ることは明らかにわかります。1980年にワシントン州のセントヘレンズ山が噴火した後、決壊したダムから地層ができたことが観測されました。これは、何百万年ではなく、数時間に起こったことです。

この噴火の結果、短期間でグランドキャニオンの縮小版のような渓谷も形成されました。

では、セントヘレンズ山からわかったことをご紹介します短い動画をご覧ください。こういう内容を、子どもたちにも伝える必要があります。聖書が洪水について教える内容にそった地球の姿に関する疑問に、しっかりと答えがあることを子どもたちに知らせましょう。

グランドキャニオンがコロラド川の浸食によって何十億年もかけてできたという説は、今ではほぼすべての地質学者が信じていません。

セントヘレンズ山の噴火は、聖書の創造論者にとって贈り物のようでした。地層の形成に何百万年もかかるというライエルの説を葬ったからです。地層学者スティーブ・オースティンは、神によって大いに用いられています。

つまり、科学的観測から見られる証拠は、斉一説と合致しません。そして、聖書は何十億年という説を教えていません。

ヘブル語の聖書は、創世記1:1と1:2の間に断絶の余地を残しません。また、他の聖書個所に矛盾を引き起こすので、他の問題も生みます。

何十億年という説を聖書に取り入れようとしたもうひとつの方法は、創造の話が一日ではなく数十億年の間に起こったことだという説です。神が何十億年も前に創造の業を始められ、そして神がアダムとエバを造られた第6日目に創造が完成しましたが、それが数千年前だということです。この世の考えに合わせるために聖書をゆがめようと一生懸命になっているクリスチャンがいるようです。

ローマ12:2

- 12:2 この世と調子を合わせてはいけません。むしろ、心を新たにすることで、自分を変えていただきなさい。そうすれば、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に喜ばれ、完全であるのかを見分けるようになります。

ヤコブ4：4

4:4 貞操のない人たち。世を愛することは神に敵することであることがわからないのですか。世の友になりたいと思うものはだれも、自分を神の敵としているのです。

多くのクリスチャンがこのテーマについて沈黙を守りたいようです。または、聖書の教えを妥協して何十億年という説に迎合します。そうしなければ、反知性主義とか、アンチ科学とってバカにされるからです。けれども、イエスに従う者が神の民に真理を語ればそのような扱いを受けるのはいつの時代も同じです。それが、この墮落した世の中でクリスチャンとして生きるのに伴う犠牲です。人は光ではなく暗闇を愛したと聖書は語ります。

コリント第二2：16

2:16 ある人たちにとっては、死から出て死に至らせるかおりであり、ある人たちにとっては、いのちから出ていのちに至らせるかおりです。このような務めにふさわしい者は、いったいだれでしょう。

神が創造や洪水について語られたことを世間が信じないのは当たり前です。けれども、聖書の教える内容を多くのクリスチャンが信じないのは驚くべきことです。科学的観測から得られた確かな証拠があるにもかかわらずです。

何十億年という説は、他の聖書箇所とも矛盾します。イエスのことばを読みましょう。

マルコ10：6-7

10:6 しかし、創造の初めから、神は、人を男と女に造られたのです。

10:7 それゆえ、人はその父と母を離れ、

10:8 ふたりは一体となるのです。

イエスはアダムとエバのことを語っておられます。彼らは、創造の初めから造られたのです。1節と2節の間に数十億年もの断絶があるなら、または「日」というのが通常の日よりも長い期間を指すなら、アダムとエバは創造の初めではなく創造の終わりに造られたこととなります。イエスのことばに間違いはありません。もちろん、イエスは間違っておられません。ですから、この箇所によって、聖書に何十億年を追加する説は破られます。創世記は、神が宇宙を6日間で造られたと教えます。そして1日休まれました。そしてアダムからイエスまでの系図から、これがどれくらい前に起こったことかおおよそ計算できます。そこに、空想上の数十億年を差し込む余地はありません。聖書によると、地球は数千年前から存在します。

箴言30：5-6

30:5 神のことばは、すべて純粋。神は抛り頼む者の盾。

30:6 神のことばにつけ足しをしてはならない。神が、あなたを責めて、あなたが偽り者とされな  
いために。

人は、神のみことばに数十億年を付け足そうとしています。これは、あらゆる理由で大きな過ちです。また、最新の発見は神のみことばが正しかったことを示しています。

6日間の創造を信じない聖書教師がたくさんいることはわかっています。その多くは、創世記11章以降については良い教えをしていて、尊敬に値する人たちです。問題は、サタンの影響力や欺きの力を軽視していることだと思います。サタンは、聖書に反する彼自身の哲学こそ科学だと人々に信じ込ませています。けれども、それは真実ではありません。

科学の方法論を作ったのは、6日間の創造論者であり聖書を信じるクリスチャンであったフランシス・ベーコンです。彼の方法論は、現代にも引き継がれています。

何かを科学的事実であるとみなすには、同じ条件下で繰り返し試して観察できなくてはなりません。



現代の科学技術はすべて、この科学の方法論に基づいています。

コンピューター、車、飛行機、宇宙旅行、をはじめ、すべてがこの科学の方法論を使って生み出され、完成されました。

一方、進化論やビッグバン理論は科学ではありません。現代技術のように、同じ条件下で繰り返し試して観察できません。過去に関する仮説のひとつにすぎないからです。

また、化石や岩石の年代測定に使用される放射年代測定などの年代測定方法は、機能しません！

1980年に噴火したセントヘレンズ山のように、たくさんの火山岩が検査され、これらが数十万年、または数百万年の火山岩の日付で研究室から戻ってきました。もし放射年代測定が信頼できないものなら、なぜこれらの方法で、火山岩の正確な年代を推定できるのでしょうか？

この世は、これが信仰対科学の戦いだと私たちに思いこませようとしします。けれども、信仰か科学かの問題ではありません。これは、神のみことばを信じるか、人の言葉を信じるかの問題です。世界観の戦いです。進化論やビッグバン理論といった非聖書的かつ非科学的思想を信じるには、多大な信仰が必要です。creation.com や answers.com といったウェブサイト（英語のみ）で、これらの理論の持つ多くの問題点を読めば、それを信じる人こそ盲目的だということがわかるでしょう。進化論やビッグバン理論を純粋に科学的観点から疑問視する科学者が増えています。私たちクリスチャンはなおさらそうであるべきです。

私は、大学の中でも進化論に反対する勇敢な学生、教授たちがいる事を、うれしく思います。

有名なイェール大学のコンピューターサイエンスの教授であるデイビット・ゲレンター氏はクリスチャンではありませんが、進化論についての膨大な資料の証拠を拒否しています。

ゲレンター教授は言います。「あなたが進化論に挑戦する時、自分の人生を危険にさらします。

あなたが挑戦すると、彼らはあなたのキャリアまでも潰してしまいます。そして学界で、進化論について疑問を抱く人たちは大きな圧力を受けています。多くの懐疑論者は、進化論の反対を大きく声に上げたために、彼らのキャリアを奪われました。」この真実をベン・スタイン氏によってドキュメンタリーされた映画「追放：インテリジェンス（知性）は許されない」があります。

最後に、私が皆さんにお伝えしたいポイントを、お話しいたします。これはおそらく、何十億年という説を信じててもよいと教える教師を見過ごせない最大の理由でしょう。

### 創世記1：31

1:31 神はお造りになったすべてのものを見られた。見よ。それは非常に良かった。夕があり、朝があった。第六日。

恐竜の骨に、脳腫瘍や関節炎、ガンといった病気の痕跡が見つかっているとご存知ですか。

もし化石の見つかった恐竜がアダムの造られる何百万年も前に生息して絶滅していたのなら、神はアダムが罪を犯す前に死と病気と苦しみに満ちた世界をお造りになったこととなります。人間の罪が死と病気と苦しみをもたらした、死は罪の罰である、と聖書は明確に教えます。けれども、罪が入る前に死が存在したなら、死があるのは私たち人間のせいではありません。神のせいです。神は死を何百万年も存在させておいて、「良かった」と言ったこととなります。死やガンが非常に良いと言う神とはどんな神でしょう。

罪が入る前に死が存在したという考えは、神のご性質を攻撃するためにサタンが使う隠し技です。サタンは最初からエデンの園で神が良いお方であることに疑問を呈していました。サタンは欺く者です。偽りの父です。そして、全世界を滅びに導く墮落した世の神です。進化論やビッグバン理論は、サタンというこの世の神が今の時代に与えた哲学の主要部分です。

私の仕える神は愛の神です。神が最初に造られた園は完ペキで、死も病気も痛みもありませんでした。動物ももとは草食でした。私たちの罪が死と病気と痛みののろいをこの世界にもたらしたのです。私たち人間は神に似せて造られ、地球を支配する権利を与えられました。けれども人間は、神の完全なみこころに背くことを選び、死と病気と痛みをもたらしました。

戦争や飢餓、地震や津波が起こるのは、そういう理由です。この世は人間の罪によって壊れた状態

になりました。神のせいではなく私たちのせいなのです。

天体物理学者のジェイソン・ライルは言いました、「古い地球の神学は、死が罪に対する罰ではなく、神の創造の自然な部分であると誤った福音を説教するため、救いにつまずきをもたらします。」このため、多くの若者が教会を去っています。彼らは、病気、癌などを生み出され、良しとされた神様を信じたくありません。人は、どうしてこのような神様を、ほんとうに愛することができるのでしょうか？ これは、私たちが愛する神様ではありません。

けれども神は、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛されました。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためです。これこそ、私たちの仕える神です。愛と赦しの完全な神。このお方は、死ではなく、永遠のいのちの造り主です。

懐疑的な疑問への答えはあるとおわかりいただけでしょうか。マルティン・ルターの時代に起こったように、神のみことばの権威に立ち返る改革が起こります。神のなさる御業に加わりましょう。神は、初めから終わりをご存知のお方です。神のみことばを学び、自然界からの証拠を学べば、真理を指し示す知恵が神から与えられます。

マルティン・ルターが理解したように、主の恵みのゆえに、私達は、信仰によって救われます。それは、盲目的な信仰ではなく、子供たちが信じる事ができるように導かれることです。子供たちが神様の御言葉を正しく理解できる時、彼らは強い信仰へと導かれます。

聖書は、私たちの内にある希望について説明を求める人に、私たち、クリスチャンはいつでも説明できる準備をしていなさいと、言っています。私たちの子供、孫たちにも正しく神様の言葉を伝える事ができるようにしましょう。クリスチャンでない人達は、恐竜のフィギュア、本、そしてメディアを通して子供たちに、進化哲学、数百万年前を教えてきました。私たち、クリスチャンはこれらのごまかしに対抗し、神様の御言葉が真実であることを示す証拠を、子供たちに教えるべきです。

このような情報を子どもたちに教えてあげましょう。子どもたちがだまされないためです。創世記から黙示録まで一切妥協しない聖書的世界観を持てるよう、子どもたちの手助けをしましょう。そうすれば、大きくなっても信じ続けて、イエスの証人となれるでしょう。